スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

神奈川県　開成町

自 治 体 名 ： 神奈川県　開成町
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0465-82-5221

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	6.56 ㎢
人口	18,808 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	528 人
部活動数	14 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

開成町では、令和８年度地域移行本格実施に向け令和５年度に準備委員会を発足し、実施計画・協議等準備を行ってきた。令和６年度以降は段階的に順次地域移行化を実施していく。その際に持続可能な事業となるよう町内に存在する「一般社団法人開成町総合型スポーツクラブ」を核として事業全体の管理運営や指導者の量・質の確保を行っていく。

令和６年度には令和７年度以降の実施計画及び、実際の部活動運営を行う。文化部では吹奏楽部１部活をモデルとして地域移行化し、その中で学校施設の活用、運営費の適切な収支、指導者の量・質の確保や休日部活動の在り方を検証していく。実施後、教員や生徒等に対しアンケートを行い、事業の進捗、解決すべき課題等を把握しながら、今後の計画・運営に反映する。

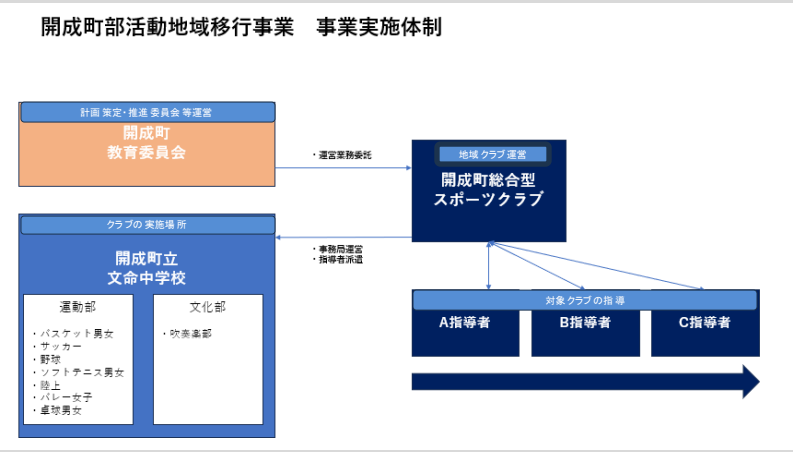


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・開成町部活動地域移行準備委員会の運営

・再々委託先（開成町総合型スポーツクラブ）の指導・助言・支援

◉首長部局

・特になし

年間の事業スケジュール

４月　部活動地域移行　開始

８月　令和6年度第１回開成町部活動地域移行推進委員会

１１月　令和６年度第２回開成町部活動地域移行推進委員会

１１月
～１２月 次年度に向けての予算要求・保護者等へ説明

６月
～２月　令和７年度新たに実施する部活動の地域移行に向け学校と関係団体とで詳細の調整・実施計画の策定

３月　令和６年度第３回開成町部活動地域移行推進委員会
３月定例議会にて予算承認を受ける

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（ 1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	1 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
開成町総合型スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	サッカー部	月 4 回	8：30 ～ 11：30	1年 4人 2年 12人 3年 3人	年間	文命中学校 特別教室等 各部屋	1 人	3 人	無料	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●8月 プログラミング教室実施

2.実証内容と成果

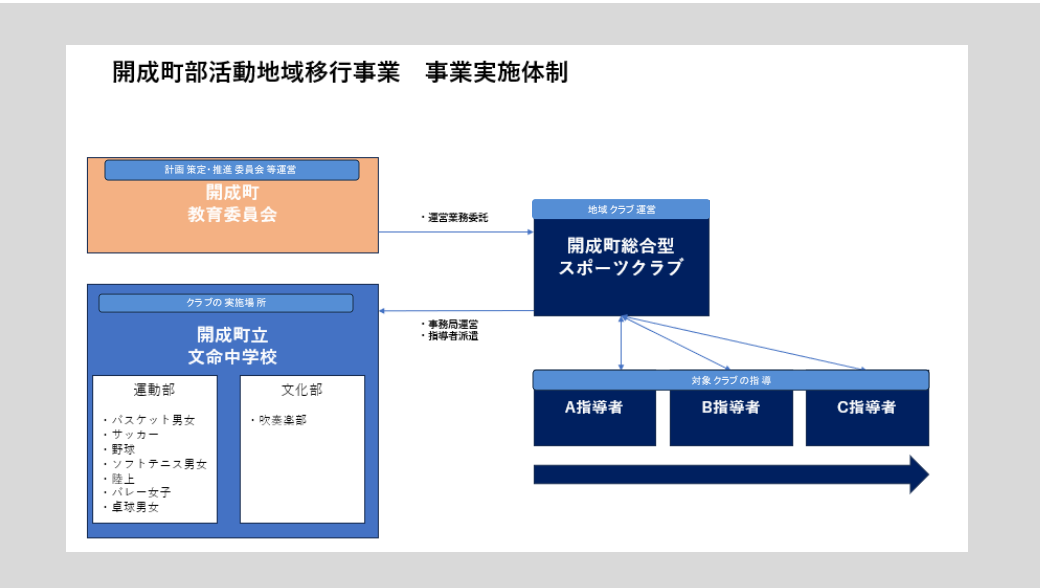
スポーツ庁

主な取組例

開成町総合型スポーツクラブ活動概要k

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー部
運営団体名	開成町総合型スポーツクラブ
期間と日数	サッカー： 令和6年４月～ 令和７年３月 月３～４回程度
指導者の主な属性	社会人
活動場所	文命中学校　グラウンド
主な移動手段	自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	無料
１人あたりの保険料	民間保険　町費

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター1名

役割：運営に際し、学校と指導者との調整を行う。また、令和７年度の実施計画を関係者と連携し策定する。

●指導者　１ 名

役割：サッカークラブの指導を行う

●施設管理者１ 名

役割：運営時の施設管理、生徒の安全管理を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

コーディネーターは令和６年度に実施する吹奏楽部の地域移行の運営に際し、学校と指導者との調整を行った。また、令和７年度の実施計画を関係者と連携し策定した。

・コーディネーターが事業検証し解決すべき課題の把握を開成町教育委員会と協働し洗い出しを行った。

取組の成果

子どもたちに自分にとっての部活動や地域クラブについて考えていることをインタビューした。
・専門的なことを教えてもらうことができる。
・新しい戦術を教えてもらえた、違うポジションにも挑戦してみたい。
【教職員】
・休日の出勤が昨年度と比較し50～70%減
・これまで専門的な指導は他の教諭に聞くことができなかったが、指導者に相談することができるようになり、より深い活動が可能になった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

・令和7年度開成町部活動地域移行実施計画策定支援
・関係者打合せ実施/月1回
・クラブの実施、運営、施設管理、安全管理　等

今後の課題と対応方針

・実施部活動が増加する中で運営の質の担保
・受益者負担の検討

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

開成町及びコーディネーターとで連携しサッカー部と調整のうえ、安定的に指導者及を確保する。また、令和７年度以降実施に向け、開成町及びコーディネーターは、関係団体、民間企業等と調整し指導者の確保を行っていく。

種目	資格有無
サッカー部	資格無

取組の成果

開成町及びコーディネーターとのな連携を通じて、地域の活動が安定的に運営されるよう実施しました。この取り組みでは、スポーツ少年団、地域の関係団体、さらには民間企業などの多様なステークホルダーと協議を重ね、特に、活動を円滑に進めるために必要な指導者と施設管理者の確保に重点を置き、それぞれ2名の人材を選定・確保しました。これにより、現場での指導体制や施設管理の面での安定を図り、子どもに寄り添った運営が可能となる基盤を築くことができました。 加えて、活動内容の充実を図るために子どもたちに対して直接意見を聞くことで活動の在り方を見直しました。この手法では、子供たち自身が持つ希望や意欲に対して具体的な意見を引き出すことを目指し、一連の対話やワークショップを行いました。その結果、子供たちが現在の活動内容について主体的に関わっていきたいという強い希望を持っていることが明らかになりました。これにより、従来の指導・運営スタイルを基にしながらも、子供たちがより主体的に参加しやすい環境を整える必要性が改めて認識され、新しい活動方針を策定するきっかけを得ることができました。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ協会や各種団体、民間企業と連携し指導者の確保を行う。また、地域移行化する部活動数の増加に伴い、スケジュールや施設利用の調整がより複雑化するため、開成町、開成町総合型スポーツクラブ及び学校が連携する必要がある。

取組の成果

地域の子供たちや保護者への理解と協力を促進するため、学校との連携を深め、PTA総会や部活動説明会の場を活用して事業内容の説明を行いました。これにより保護者の方々に事業の目的や意義を十分に伝えるとともに、事業への関心を高めることを目指しました。さらに、説明会では専用のチラシを配布し、多くの家庭へ情報を届け、地域全体での共感と協力の基盤を築きました。 また、指導者や運営スタッフの確保に向けて関係団体との連携を進め、地域の人材を効果的に活用できる環境づくりを行いました。これにより、事業運営に必要なスタッフ陣の確保を着実に進めることができました。さらに活動場所の確保に関しては公共施設と協議を重ねた結果、活動場所を無償で提供していただくことが実現しました。このような支援は子供たちが安心して活動できる場を提供するだけでなく、運営コストの軽減にも大きく寄与しています。

今後の課題と対応方針

継続的な運営を行うために、地域の関係団体や住民との連携をさらに強化し、事業の目的や意義について広く周知すると同時に、スタッフとしての参加への意欲を喚起することが重要です。さらに、スタッフのスキルアップを目的とした研修を実施するなど、長期的な育成プランを構築することも欠かせません。加えて、活動場所として公共施設を継続的に優先利用できるようにするためには、施設を管理する自治体や関係機関との信頼関係を深め、その理解と協力を得るための具体的な働きかけを続けていくことが重要です。具体的には、施設の利用状況や事業の成果を定期的に報告する場を設けることで、活動の透明性を確保し、施設の利用に対する協力を強化することが期待されます。また、施設を利用させていただくにあたり、感謝の意を伝えるとともに、地域貢献に役立つような活動も増やすことで、相互協力の基盤を築いていく方針となります。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項	各自治体の役割	移動手段	事務局運営の方法
将来的に他市町村の生徒等の参加の可否について検討する。	神奈川県の主催する「広域連携担当者会議」への出席	検討中。	検討中。

取組の成果

神奈川県及び近隣1市5町の担当者と、今後の広域連携について協議を行った。まず、広域連携の必要性やこれまでの課題について共通認識を深めるため、各自治体の担当者との意見交換を実施した。協議では、具体的な連携の方向性や実施可能な取り組みについて議論が行われた。また、広域連携を円滑に進めるための具体的な体制構築や、持続的な協力関係を築くための方法についても提案された。

今後の課題と対応方針

神奈川県及び近隣1市5町の担当者と、今後の広域連携について協議を行った。まず、広域連携の必要性やこれまでの課題について共通認識を深めるため、各自治体の担当者との意見交換を実施した。協議では、具体的な連携の方向性や実施可能な取り組みについて議論が行われ、地域間での情報共有の重要性に対する意見が一致した。また、広域連携を円滑に進めるための具体的な体制構築や、持続的な協力関係を築くための方法についても提案された。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

令和5年に実施した、アンケートに基づき、中学校の夏季休暇中に「プログラミング教室」を実施した。

活動の詳細

参加人数	16人	指導者数	3人
属性	プログラミング教室		
具体的な内容	運営を株式会社セガに委託し「ぷよぷよ」を活用して、生徒自らがゲームをプログラミングする事業を行った。指導者にはプロのe-スポーツプレイヤーをお呼びし、生徒が学んでいる「プログラミング」が将来どのように生かされるか教えていただいた。		
子供の声	● 終始集中して講師の話やプログラミングを楽しんでいました。質疑応答も多くの質問が上がりました。中にはプロプレイヤーに興味がある生徒やプログラミングを仕事にしたい生徒などが具体的な質問をしていたことが印象的でした。		
運営経費	295,900円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

プログラミング教室に参加した生徒は、終始集中して講師の話やプログラミングを楽しんでいました。質疑応答も多くの質問が上がりました。中にはプロプレイヤーに興味がある生徒やプログラミングを仕事にしたい生徒などが具体的な質問をしていたことが印象的でした。



今後の課題と対応方針

今後、事業を拡大していくにあたり、内容の充実は必要と考えている。令和5年度に実施したアンケートにおいて、生徒や保護者から既存の部活動にはない、種目に希望が集まった。今後、受益者負担を検討する中で既存の部活動にとらわれず、新しい種目や活動を取り入れ、事業の魅力向上につなげていきたい。新しい種目や活動に関しては、まず既存の部活動を地域移行させた後、事業の収益確保の一角として実践できるよう計画をしていきたい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

本事業に係る会費の適切な設定・徴収方法の検討や保護者負担経費の調査検討を行う。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・特になし

■ランニングコストの分析

●文命中学校部活動地域移行支援業務委託料

・管理料　1,653,300円

・サッカー部指導者派遣料　968,000円

・教職員兼職兼業　228,000円

●部活動地域移行　傷害保険

サッカー部（生徒）　235,125円

指導者分（サッカー部）　20,000円

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

現時点では、町費負担を軸としつつ、今後受益者負担について実施していくか検討する。

収支バランス

国からの委託事業

2,381,300円

町費723,125円

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造の内「傷害保険料」については、の保護者等が負担してくよう検討する。
また、「文命中学校部活動地域移行支援業務委託料」については、生徒に直接的に関連する部分ではないため
、国費や町の自主財源等を活用する。よって、
「傷害保険料」を受益者負担の対象に検証を行っていくこととする。

●文命中学校部活動地域移行支援業務委託料
・管理料　1,653,300円
・サッカー部指導者派遣料　968,000円
・教職員兼職兼業　228,000円
●部活動地域移行　傷害保険
サッカー部（生徒）　235,125円
指導者分（サッカー部）　20,000円

今後の課題と対応方針

○スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、参加者の一定の理解がなければ徴収が難しい。また、同時に実施主体が簡易に参加料を徴収できる仕組みを併せて検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○活動に必要な器具が学校内に存在することや、生徒の安全を確保するため、学校の施設を中心に事業の活動を実施するよう調整を行なった。
○中学校と連携し事業への協力及び施設の利用について優先利用できるよう調整を行った。

取組の成果

○中学校と連携し事業への協力及び施設の利用について優先利用できるよう調整を行い活動の中心をグラウンドで実施した。

今後の課題と対応方針

○今後も学校や公共施設が継続的に場所を提供してもらえるよう事業周知を行う。また、その他公共施設も順次利用拡大できるよう調整していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・事業を実施し、４月からサッカー部のクラブ化、計3回の推進委員会の開催、毎月の関係者打合せを実施した。夏季休暇中にはアンケートで希望の多かった「プログラミング教室」を実施し、一定の参加及び評価を得ることができた。

・関係者間で連携し、新しい指導者及び運営スタッフの確保をすることができた。また、学校や公共施設との連携も進み活動中の学校施設の優先利用が実施できた。

・神奈川県主導の下、近隣市町との連携会議が設けられた。今後広域連携の実現に向け協議を続けていく

・今後、継続的に事業を運営するため受益者負担も検討していく、現段階では「傷害保険」を念頭に考えている。ただし、事業の理解や、簡易な集金システムの検討も必要と考えられる。

●成果の評価

・事業を実施するにあたり、運営者としての関係者理解のための打合せや、生徒やその保護者に対する説明を丁寧に行ってきた。実施前後で大きなトラブルや意見の相違等なく運営することができた。

・学校での施設利用について、事前に運営する際の備品の扱いや動線の確認等行った。運営スタッフも施設をよく理解できたため運営がスムーズに行えた。また、行政が公共施設利用に関して調整を行ったため、事業内容の理解が進みやすかった。

・広域連携について具体的な意見交換ができた。

・受益者負担について、負担していただく部分の明確化が行えた。また、導入していくにあたっての関係者理解や集金スキーム構築の必要性が確認できた。

●今後に向けて

開成町では、令和7年度、開成町部活動地域移行実施計画を策定し、現状の地域移行した部活動に加え、5部活をクラブ化していく。その際に、上記で成果として挙げられた、関係者間の理解促進や継続的な事業としていくための受益者負担等のスキームを検討していく必要がある。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参加者の声

●参加者の声

中学２年生（など）
指導者に新しい楽器を教えてもらった。初めての挑戦であったが、すべきことが明確であったのでうまくできた。今後もこの楽器に挑戦したい。

中学３年生
専門的なことを教えてもらうことができる。

中学校３年生
ほかの中学校では、吹奏楽部がなくなることもあるよう。文命中は卒業生が後輩を教えるという伝統がある。今後も文命中学校には吹奏楽部を残してほしい。

指導者
これまで専門的な指導は他の教諭に聞くことができなかったが、指導者に相談することができるようになり、より深い活動が可能になった。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

広報資料

○事業周知のため年間を通じ、事業内容を記載したチラシの配布、生徒保護者説明会、PTA総会、部活動説明会ににおいて事業説明を行った。実際に参加する生徒の保護者には承諾書を提出いただいたのち参加していただくようにした。また、実施後、生徒にはインタビューを行い、地域移行の感想、今後の展望等意見をいただいた。



【町広報誌への掲載】

出典:**広報かいせい令和6年（2024年）6月号**

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



クラブ　はじめ式



サッカー部　チームミーティング



広報かいせい令和6年（2024年）6月号

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年

協議会設置、検討開始 ▶ 受け皿団体や指導者の選定、拠点校の選定 ▶ 記載例）学校現場との調整 ▶ 記載例）生徒、保護者への説明 ▶ 令和６年 地域クラブ活動の開始 ▶ 地域クラブ活動の拡大

記載例»»

●ステークホルダー

学校、スポーツクラブ、民間企業、町教委、総括コーディネーター、コーディネーター

●経過

令和5年度より検討委員会を設置し、開成町総合型スポーツクラブを運営団体とした新たな地域クラブ体制を令和６年までに構築する方針を定めた。同年、学校、運営団体とコーディネーター、指導者、行政等で組織する打ち合わせ会を毎月実施し、令和6年度の実施計画の策定作成を進めた。

実施内容

令和６年４月からは町内１中学校の１部活動において月２～４回、休日の部活動をクラブ化し実施している。

●実施にあたって生じた課題

事業理解の推進、運営事業費の確保

●実施内容、工夫した点 等

チラシ・町広報を活用した周知、各種説明会での事業説明

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
計画・準備期間	段階的な地域移行の開始 運動部１ ・サッカー部 文化部１ ・吹奏楽部	段階的な地域移行 運動部 ４～５部活 計６～７部活	**全面実施** 段階的な地域移行 運動部 ４～５部活 計１１部活